

平成22年3月3日現在

研究種目：若手研究(B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19730263
研究課題名(和文) グローバル企業のデザインマネジメント

研究課題名(英文) Design Management of Global Firms

研究代表者

岩谷 昌樹 (IWATANI MASAKI)
東海大学・政治経済学部・准教授
研究者番号：70366003

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：グローバル企業、デザインマネジメント、デザインプロセス、デザイン戦略、
デザイン思考、製品開発、経験経済、デザイン主導型企业

1. 研究計画の概要

本研究が主題とする「デザインマネジメント」は、経営学部とデザイン学部の両方の教育プログラムにおいて必要となる視点を提供するものである。経営学部生は経営者の候補群であり、デザイン学部生はデザイナーの卵たちである。そうした双方が同じ会社で働く場合、「デザインというものが経営戦略上、重要な経営資源である」という共通の認識がないと、グッドデザインによる差異化が図れないことになる。

アップルやサムスン電子などは、すでにこの事実(デザインベースの能力が貴重で稀少な存在であり、他社からの模倣が難しいものであること)に気付いており、デザイン優先のマネジメントを展開している。

一般に、デザインマネジメントの手法は、ラグビーアプローチと呼ばれ、マーケティング、エンジニア、デザイナー、セールスマンが事業の最初からスクラムを組むような形で、意見交換を絶えず行いながら、1つの製品の開発に着手する。アップルを率いるスティーブ・ジョブズは、このラグビーアプローチを好んでおり、あらゆる分野の者との対話を繰り返しながら、iPod や iPhone といった新商品を次々と市場へと送り出した。

実際にアップルが消費者から支持を受け、高いブランド価値を形成しているという事実から見出せることは、「デザインの価値を進んで受け入れて、その価値を会社全体で認め合うことが必要であり、それにはトップマネジャーの参与が不可欠である」ということである。

本研究では、こうしたデザインマネジメントについての理論構築を豊富な事例に基づいて行うことで、経営学部とデザイン学部において有益な「デザインマネジメント論」を提示することを目的としている。

2. 研究の進捗状況

大きく分けて、次の6つのものを研究成果として挙げるができる。

(1)デザインマネジメント論で初めて博士号を取得した、パリ在住の研究者であるブリジット・ボージャ・ド・モゾタ教授の著した **Design Management (2003)** の翻訳作業を行った。これに日本企業の事例を加筆することで、モゾタ教授等と共著名義の『戦略的デザインマネジメント デザインによるブランド価値創造とイノベーション』を2010年1月に同友館から刊行した。

(2)2009年7月に、共著『デザインマインド・マネジャー 盛田昭夫のデザイン参謀 黒木靖夫』を日本出版サービスから刊行した。

(3)2009年3月に、本研究の代表的な研究成果となる単著『グローバル企業のデザインマネジメント』を学文社から刊行した。

(4)2008年6月に「サムスン電子のデザインマネジメント」「デザインとマネジメントの収斂：「デザインナンス」という新概念」と題した2件の共同発表を「第55回日本デザイ

ン学会春季研究発表大会」(広島国際大学)で行った。

(5)2008年11月に「デザイン主導型企業の論理」と題した論文を『立命館経営学』に発表した。

(6)海外調査を6回行った。

①2007年9月、韓国・ソウルにて、サムスン電子について調査した。サムスン経済研究所の主席研究院と面談をし、サムスンが運営するリウムやサムスンの携帯電話のフラッグシップストアである Anycall スタジオなどを訪問した。

②2008年3月、フランス・パリにて、パソンズ・パリ校アート&デザイン学部のブリジット・ボージャ・ド・モゾタ教授と翻訳書出版について打ち合わせをし、ボンピドゥーセンターなどで文献を収集した。

③2008年3月、デンマーク・コペンハーゲンにて、デザイン関連施設を回り、デンマークのデザイン企業に関する情報を収集した。

④2008年8月、アメリカ・ニューヨークにて、デザイン関連施設を回り、最先端の情報を収集した。

⑤2008年9月、韓国・ソウルを再訪し、水原にあるサムスン広報館を訪問した。

⑥2009年1月、フランス・パリに再訪し、ESSEC ビジネススクールの長沢伸也客員教授と出版物の打ち合わせを行った。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
(理由)

計画を立てた当初は、研究機関の最終年となる2010年度に、研究課題名と同じタイトル(グローバル企業のデザインマネジメント)の単著を出版することを目論んでいたが、海外調査で収集した資料が豊富であり、理論整理の作業が計画より早く進んだことで、研究開始から2年後となる2009年3月に単著を刊行することができた。

そのため、翻訳書や個別企業研究など、計画以上の研究に取り組むことができています。

4. 今後の研究の推進方策

研究課題であるデザインマネジメントの応用的テーマとなる「ブランドマネジメント」についての考察を進めたい。とりわけ、ラグジュアリーブランドであるグッチにお

けるデザイナー管理、ブランド戦略等について調べ、図書にまとめることをめざしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

- ① 岩谷昌樹、デザイン主導型企業の論理、立命館経営学、131～155頁、47巻、2008年、査読無
- ② 岩谷昌樹、ペンローズ企業成長論、東海大学紀要 政治経済学部、111～128頁、39号、2007年、査読無

[学会発表](計2件)

- ① 岩谷昌樹・長沢伸也、サムスン電子のデザインマネジメント、第55回日本デザイン学会春季研究発表大会、2008年6月29日、広島国際大学
- ② 長沢伸也・岩谷昌樹、デザインとマネジメントの収斂:「デザイン」 という新概念、第55回日本デザイン学会春季研究発表大会、2008年6月29日、広島国際大学

[図書](計4件)

- ① ブリジット・ボージャ・ド・モゾタ、河内奈々子・岩谷昌樹・長沢伸也、同友館、戦略的デザインマネジメント デザインによるブランド価値創造とイノベーション、2010年、337頁
- ② 長沢伸也編、岩谷昌樹著、日本出版サービス、デザインマインド・マネジャー 盛田昭夫のデザイン参謀 黒木靖夫、2009年、216頁
- ③ 岩谷昌樹、学文社、グローバル企業のデザインマネジメント、2009年、228頁
- ④ 岩谷昌樹、白桃書房、トピックスから捉える国際ビジネス、2007年、233頁